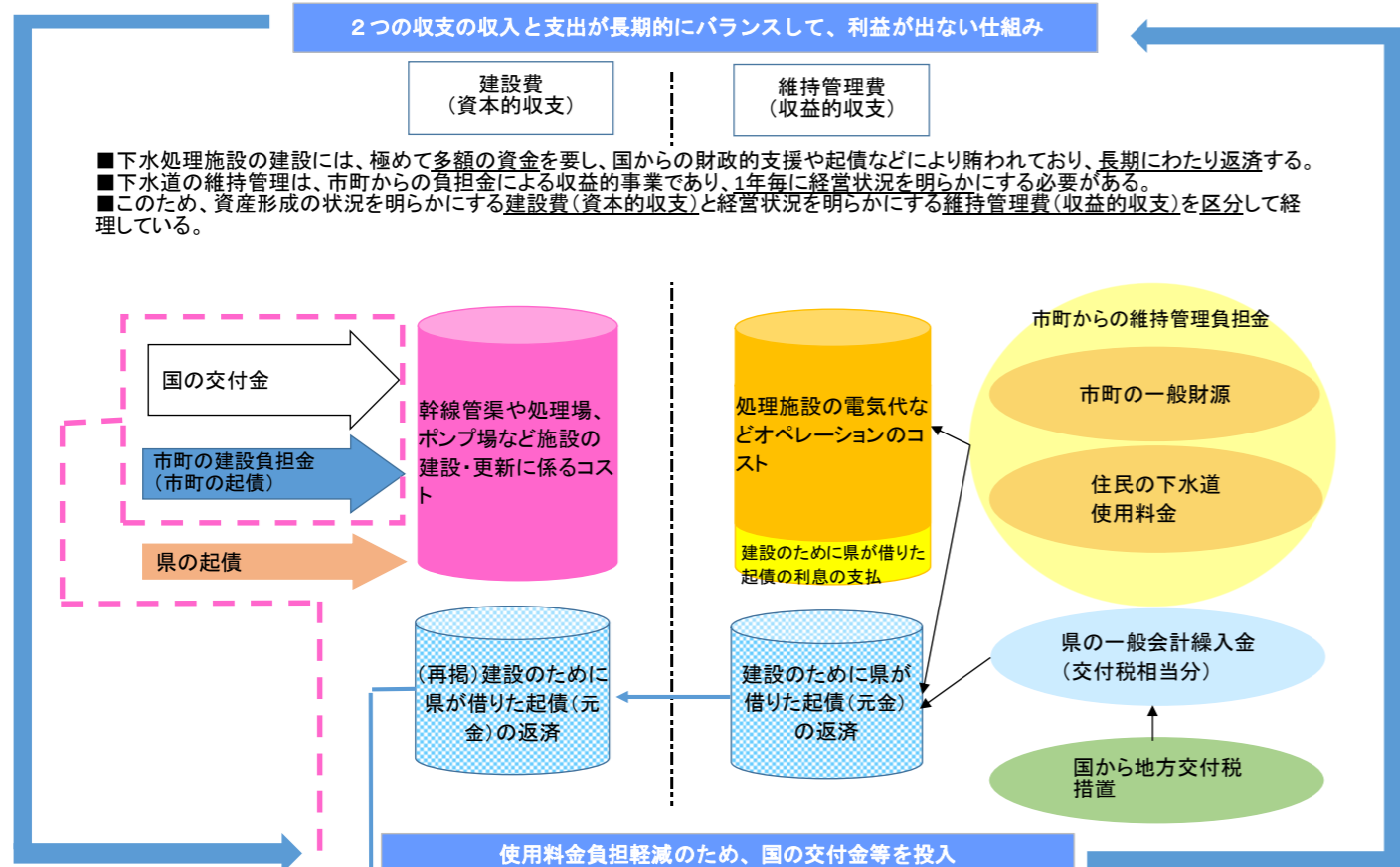


I 流域下水道事業の仕組み

【流域下水道事業の仕組み】

①建設費(資本的収支)と維持管理費(収益的収支)に区分

②各区分において、各年度に必要な資金を収入して事業を実施



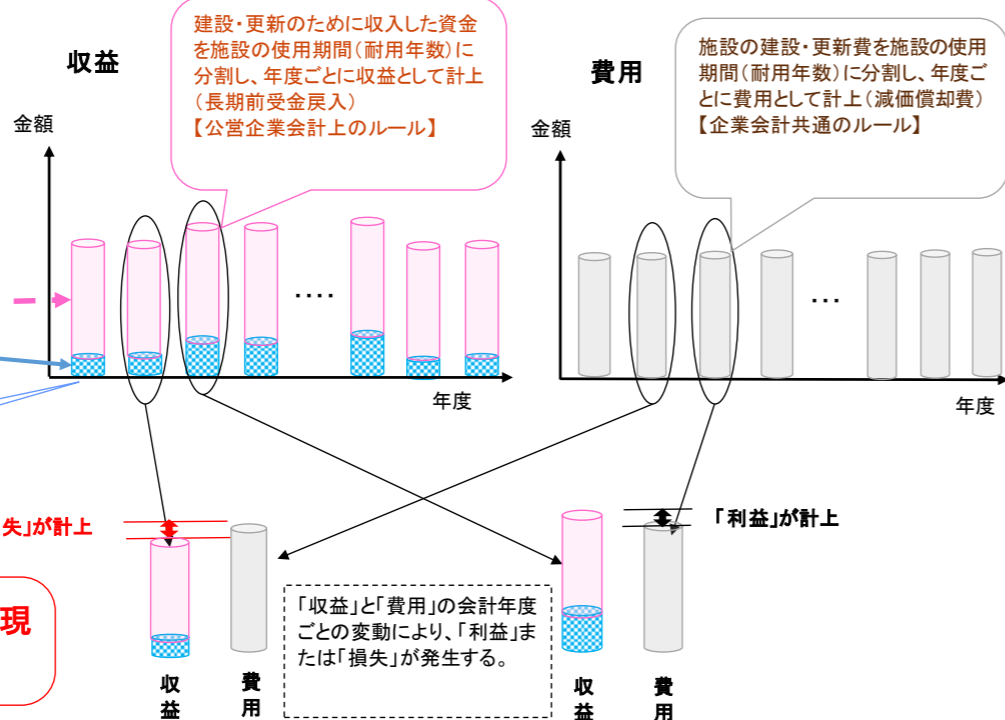
③短期的に利益又は損失が発生

【短期的に利益又は損失が発生する仕組み】

・起債(元金)の返済は市町の維持管理負担金及び県の一般会計繰入金により賄われている。

・起債(元金)に係る毎年度の返済額相当分を収益として計上【公営企業会計上のルール】

・起債(元金)の返済に据置期間を設けているため、返済額が年度間で変動



④発生する利益や損失は、現金を伴っていない。

■各年度に発生した「純利益(剰余金)」は、現金の余剰を伴わないものであることから、「積立」や「繰出」を行わず、「純損失(欠損金)」が発生した年度の穴埋めのために繰越していく。

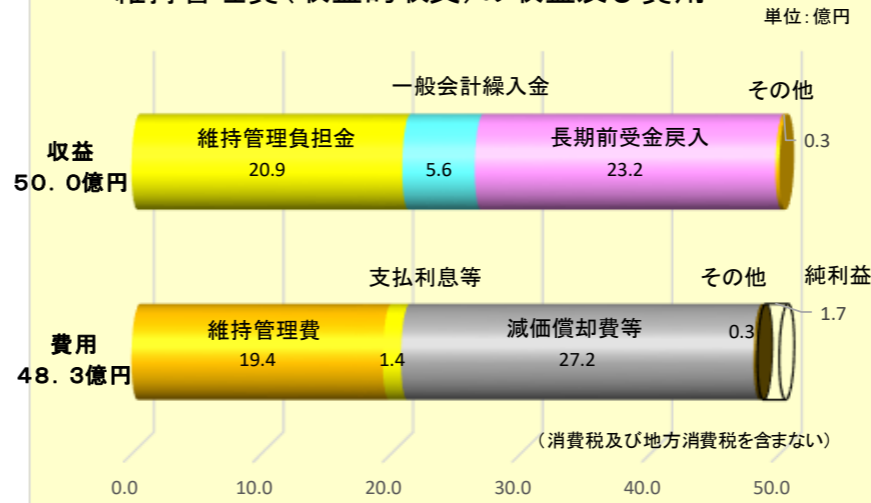
II 決算概況

1 維持管理費(収益的収支)の収益及び費用

利益と損失の状況 (消費税及び地方消費税を除く)

■収益	50億 377万円
■費用	48億3,324万円
■純利益	1億7,053万円

維持管理費(収益的収支)の収益及び費用



■業務量

- ・年間4,683万立方メートルの汚水を処理
(1日平均:50mプールで約51杯分に相当)
- ・村山、置賜、山形、庄内の4処理区、約40万人の家庭排水等を良好な水質にして河川へ放流
(流入BOD:144~242mg/L⇒放流BOD:2.2~3.7mg/L)

■維持管理

- ・施設維持管理費(税抜) 約20億8千万円(支払利息等含む)
財源:市町維持管理負担金 20億9千万円
(差額については、次年度の市町の負担金と精算)
- ・老朽化が著しい施設の点検・修繕等を実施
- ・令和2年7月豪雨による①マンホールポンプの異常停止への対応(村山)②汚水溢水への対応(山形)を実施
- ・汚水の処理過程で発生する下水汚泥約2万4千tの91%を再資源化
- ・下水汚泥から発生するメタンガスを活用し消化ガス発電を実施(山形)約4千万円の処理場の電気料金を節減

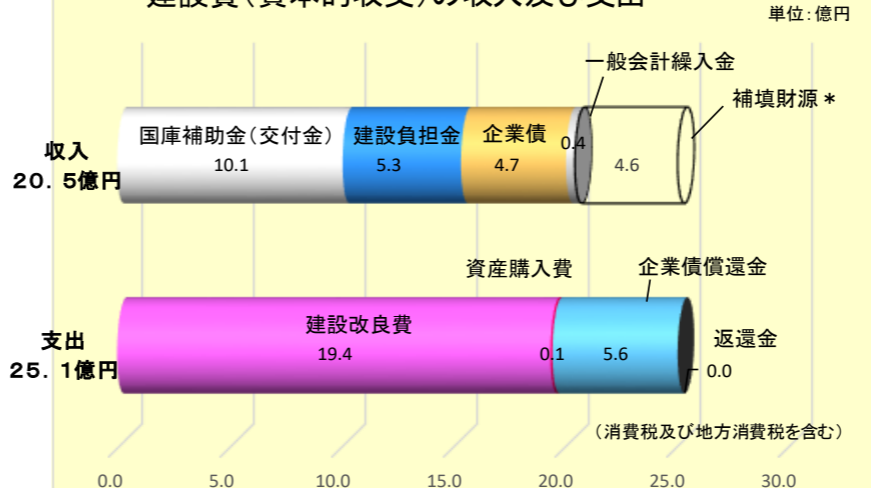
2 建設費(資本的収支)の収入及び支出

資本的収支の状況 (消費税及び地方消費税を含む)

■収入	20億4,718万円
■支出	25億 822万円
■収支差	▲4億6,104万円

* 収支差のマイナスは損益勘定留保資金等

建設費(資本的収支)の収入及び支出



* 資本的収入が不足する分は損益勘定留保資金等で補填 [維持管理費(収益的収支)の一般会計繰入金の一部など]

■施設整備

- ・建設改良費(税込) 約19億4千万円
財源:国の交付金
市町建設負担金
県企業債
- ・処理の効率化を図るため汚泥脱水機の増設(山形)
- ・老朽化した機械電気設備の改築更新(全処理区)
- ・管路施設等の耐震化(マンホール浮上防止対策など)(全処理区)
- ・老朽化した管路の改築(村山)



マンホール浮上防止工法